

【家庭科】

■児童の状況	・初めて行う活動にも、楽しんで取り組んでいる。 ・授業で教わった基本の縫い方を生かしたオリジナルマスコットや小物入れなどの作成に意欲的に取り組み、学んだことをどんどん生かしていこうという姿が見られる。
■指導についての課題	・調理や裁縫において、児童の個々の能力や経験の差が大きいため、指導上の手だてを工夫していく必要である。 ・家庭科室については、古くなっている備品や壊れているものも置かれたままになっていたり、物が整理されずに置かれていたりするため、一度確認、整理が必要である。
■授業改善に向けての具体的な方策	・調理実習では、前時に動画を見てイメージをもつことで、実際の作業になっても戸惑う児童が少なかった。また、一人ひとりの役割を明確にしたり、手が空いたときにできる仕事を事前に確認したりすることで、次々と自分の仕事を見付けて進めることができた。2学期からは時間計画も入れることで、見通しをもたせて実習を行っていく。 ・第6学年では、第5学年で学んだ知識や技能を用いて工夫できる教材を設定する。 ・家庭科では、学んだことを生かして実践することが最も重要である。実践する機会を多くするために、家庭への協力を仰ぐ。また、長期休業中を利用して実践する機会を設ける。その際には、児童の実践への意欲を高めるために、保護者にもコメントをいただく。 ・裁縫では細かい作業、調理実習では危険な作業が多い。そのため、サポートできる環境を整えるために、地域や保護者の学習支援ボランティアを依頼する。 ・進度の差がある場合には、児童同士の教え合いを取り入れる。